

みんゆう 随想

血と汗と涙の思いで採集した昆虫たちを、未来永劫残すべく収納するガラス張りの箱を「標本箱」という。別名を「ドイツ箱」とも言い、19世紀ヨーロッパの博物学の発展と共に日本にも伝わった優れたものである。現在では本家ヨーロッパの物より、日本製が精密さで世界一を誇っている。決して安い代物ではないので、皆家族の目を気にしながら少しずつ増やしている。しかし、気付くと家の生活スペースのかなりの部分を侵食して、

渡辺 浩

石川町・ワタコギター
ミュージックスクール代表



その分だけ肩身は狭くなる。

そんな中、ほとんどの虫屋

は一家の主という威厳で、

やっとの思いで勝ち取った専

用部屋を所有している。そこ

には標本箱が山積みされ、こ

の部屋に籠っている時とトイ

だけが心休まる時間となる

そんな標本箱を前にして誰

もが心配の種を抱えている。

もし自分がこの世を旅立った

らこの箱はどうなるんだろう

？ 切実な問題である。半生

をかけて収集した標本とデー

タはきれいに種類別、科別、地

域別に収納され、その標本箱

標本箱の行く末

のである。家族は誰もその部

屋に近づこうともせず、興味

すら示さない「男の隠れ家」が

完成する。そして夜な夜な、

自慢の箱を一つ取り出しては

採集時の苦労を回想し、水割

りのグラスを片手についつい

ニターと顔を緩めてしまふ。

非常に危険な香りがする。

村)に生息する蝶類103種

の標本とデータが科別に並べ

られている。20年後には環境

も変化し、さらにその種も減

少、この標本箱が貴重な資料

となることはほぼ間違いな

い。そうなるともはや個人で

所有すべきものではなくなっ

てくる。

しかしながら、多くの先人

達の標本箱は地域の博物館等

に寄贈という名誉を与えられ

ながらも倉庫の奥底に積み重

ねられ、埃をかぶっている

のが現実であったりする。展

示は常に集客できるものが優

先なのだから仕方ないこと

でもある。結局、標本箱の山

き取ってもらうことになる。

そうやってあちこちとたら

い回しにされながらも、50年

くらいは何とか現存するであ

ろうか。最近では虫仲間の飲み

会でも「死んだら標本どうし

ようかなあ」との呟きが聞

こえてくる。「そんなこと言

ってないで、まだまだやるべ

きテーマがあるんだから頑張

りましょうよ」と無理矢理励

まし合う。

標本箱の行く末を案じなが

らも、おじさん達は来年の目

標について熱く語り合う。私

も「少しでも長生きしなくて

は」と思いつつ、今この原稿

を書きながら左手でグラスを

つかみ、右手で煙草の火をも

み消している。